

せいまいせき

1. 清間遺跡

所在地：あわら市清間

調査原因：民間物流倉庫建設

調査期間：平成24年9月13日～平成24年11月6日

調査主体：あわら市教育委員会

調査面積：約260 m² (5トレンチ合計)

時代：古墳時代、奈良時代、平安時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 清間遺跡は、大正時代より著名な西隣の伊井遺跡同様、竹田川左岸の自然堤防上に立地する遺跡です。調査地点は、伊井小学校の北西に位置する工場敷地内の北西部にあたります。同地では、平成7年度、同21年度に続き、今回は3回目の発掘調査となります。調査範囲は、平成7年の試掘調査の際に確認した遺物包含層の範囲内と想定される、計画建物の南半部で、基礎が深く入る箇所を中心に、南北方向に長さ約20mの溝状のトレンチを4箇所を設定しました。東から1～4トレンチ（以下T）と名付けています。各トレンチの東西幅は、基礎の大きさと連動して1Tと3Tが3m、2Tが4m、4Tが2.5mです。また、3T～4T間の南端の基礎部分に東西長3m、南北長1.5mのトレンチを設け、5Tとしました。4Tには、造成土の途中から掘り込まれた焼土やゴミの混じる攪乱坑が3箇所もありました。

過去の調査結果より、約50cm～70cmある造成土、その下の水田床土の直下に、遺物包含層及び遺構面を想定していましたが、試掘時に遺物包含層と判断した土層は部分的に確認されたものの、この層では遺構を識別できなかったため、さらに掘り下げを実施しています。

遺構 1T南端寄りで検出した東西方向の狭く浅い溝は、その北側に更に5条確認していますが、水田床土より掘り込まれており、近年のものと判断されます。この6条の溝は2T～4Tでもほぼ同位置で確認されましたが、周囲の掘り下げに伴って消失しています。

1T～5Tで検出した遺構は、土坑5基、溝状遺構4条とそれ以外の小穴です。小穴で遺物を伴うのは2つのみで、ほとんどは造成前の近年の耕作によるものと判断されます。土坑からは、他よりも多く遺物が出土していますが、遺構の性格は不明です。溝状遺構は、4Tと5Tとで検出し、繋がるかと判断した1条の他、溝と確定できない3条を検出しています。

遺物 出土遺物は、5トレンチ合計でコンテナに約1箱です。4T中央付近で東壁に食い込む形で土師器甕の口縁部を含む破片が出土したほかには、律令期の須恵器甕片等が目につくのみであり、復元可能な土器は少数にとどまります。

まとめ 今回の調査地は、以前の耕作等により、かなり改変が及んでいたことが想定されます。ただ、過去の調査で検出した弥生時代末期～古墳時代初頭頃の土器を多数含む溝が、ここまで延伸していないことを確定できたことが、一つの成果と言えます。（橋本幸久）

北

西

東

西

北

東

南

1* 2 >&! %| ~>'

>1>R

>R

西

東

>/ 0 p å 3 2 >&! %| ~>'

>0 0 p å 3 2 >&! %| ~>'

西

東

西

東

西



東

東

>1 0 p å 3 2 >&! %| ~>'

>2 0 p å 3 2 >& ! %| ~>'

東

東

>3 0 p å 3 2 >& ! %| ~>'

z ^ u4G "@